マタイの福音書　第 16 章　2b～3 節

「あなたがたは夕方には、『夕焼けだから晴れる』と言うし、朝には『朝焼けでどんよりしているから、今日は荒れ模様だ』と言う。そんなによく、空模様の見分け方を知っていながら、なぜ時のしるしを見分けることができないのですか。」

昨日の夕焼けは燃えるような紅であった。薄くピンクかかり、それでいて燃え上がるような炎を思わせる赤があった。天然の美ならではの色合いであった。場所によって、見える時間や、見え方は多少異なるかもしれないが、あの夕焼けを野で、山で、街で、そして海で見た人たちが沢山いたと思う。見て、明日の秋空を思い描いたと想像される。爽やかな明日の秋空を予期させる空であった。空模様をよく見分けられるこの目、この心がある。

ところが、なぜ時のしるしを見分けることができないのですか、と言われてしまう。自然の移ろいを見分けられるのに、どうして時のしるしを見分けることができないだろうか。

見えるものだけを見ていては見分けることができない。見えるものの背後にあるものが見えないと時のしるしを見分け損なう。時のしるしの背後におられる方を信じる目、こころがあれば。見てほしいと願うお方がいる。